

# 日刊 動労千葉

84. 2. 20

No. 1568

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五〇六（公衆）〇四七二二二七二〇七

## 仁杉総裁が 国会で発言

# 第二の定員法・生首切りによる 国鉄労働運動解体攻撃を許すな

仁杉国鉄総裁は、二月十五日の衆議院予算委員会で、要員合理化を積極的に推進し、六〇年度から六五年度の間には二〇万人台体制を実現するとの方針を明らかにしました。

国鉄経営改善計画の「60年度一  
35万人体制」を一年早く達成

仁杉国鉄総裁の国会での発言は、昨年十二月就任直後の「私鉄に比べ遜色のない効率的業務態勢を確立するには合理化の徹底が必要」との発言を繰り返すことで、改めて合理化を実施する決意を明らかにしたものと云えます。

現在の国鉄人員数（五九年度初め）は、三万五千人です。

すなわち、「59・2ダイ改」をはじめとする度重なる合理化、臨調答申をうけた二年間の新期採用の停止、さらには年令構成による退職者の増加等により、五七年度二二六〇〇人、五八年度二八九〇〇人の要員削減を強行した結果、五九年度では三四万五千人になるわけです。

これは「要員削減を最重点に、六〇年度三五万人体制の実現」を目標とする、国鉄経営改善計画を一年早く達成するものです。

動乗勤改悪につづく検修合理化  
「60・3ダイ改」攻撃

さらに当局は、国鉄再建監理委員会の「分割

## 国鉄職員30万内に

### 65年度までに合理化促進

総裁答弁

# 「65年までに25万人へ」



**65年までに20万人台**

国鉄総裁、削減の方向性を示す

「65年までに20万人台」を達成するため、国鉄は「60・3ダイ改」を一年早く達成し、六〇年度末に二二六〇〇人の要員削減を完了させる。さらに、六〇年度末に二二六〇〇人の要員削減を完了させる。さらに、六〇年度末に二二六〇〇人の要員削減を完了させる。

こうした合理化は、一方では膨大な「過員」を生み出しています。

五八年度においても、すでに全国で五千人を超える「過員」が発生しており、年度末特退を差引いてもなお、二万人をこえる「過員」が発生することは必至の状況となっています。

当局は行政管理庁の行政監察の結果と称し、「さらに四万五千人の要員削減が可能」と打ち出しているように、より積極的な合理化の推進を明らかにすると同時に、膨大に生み出される「過員」問題について検討を始めています。

すでに地方局によっては、「要員センター」設置が提案され、「雪かき」等、所要に応じた「過員」の効率的運用が計画されています。

しかし、当局の真の狙いは、第二の定員法攻撃すなわち生クビ切りの強行による国鉄二〇万人台体制の実現。国鉄労働運動解体にあることは明白です。

われわれは、動乗勤改悪攻撃こそ「二〇万人台体制」にむけた布石であることをみすえるとともに、「職場と仕事を守るために働こう」と称し、合理化―動乗勤改悪に率先協力する動労「本部」革マルを職場から叩きだし、国鉄労働者の生活と権利を守るために、いまこそ総反撃を開始しようではありませんか。